

OJT研修事例

グラウンドワーク大山蒜山
鳥取県大山地域、岡山県蒜山地域およびその周辺

2008年（平成20年）に『サントリー水育「森と水の学校」奥大山校』の開校、運営協力を契機に活動組織を発足。永続的な環境保全活動・交流活動を展開することを目的に、「環境調査活動」「自然保護活動」「景観保全活動」「環境学習活動」「農村再生活動」「環境観光活動」の6つを柱にしたさまざまな取り組みを行っています。



自然と景観に恵まれた地域を保全し、持続可能な地域社会を構築する

環境保全や自然保护活動と取り組みに関する協議を行い、活動を支援する企業との係り方や、地域ごとに異なる取り組みや事業を行う団体との意思統一をどのように図るかなど、地域社会の構築について実践的な研修を行いました。

OJT研修内容(1例)

【奥大山の自然環境を活用した自然学校】

- 1日目 エバーランド周辺の自然環境調査
- 2日目 抛点施設（エバーランド）の活用協議
- 3日目 自然学校体験プログラム現地協議
- 4日目 自然学校開校関係者会議
- 5日目 情報発信作業（ホームページ作成）

研修期間

8月23日～8月27日（5日間）

受入れ人数

4名



実行団体代表者

代表 德永 巧さん
グラウンドワーク大山蒜山



地方で活動をしていると、他地域の方々との交流が疎かになります。しかし、今回のインターンシップ事業などによって、他地域の人々との交流が活発に行われれば、地元の人間では気づかなかった部分を改めて分からせてくれるかも知れません。そんな期待と意義を今回、強く感じています。

現場指導者【棚田再生事業の解説担当】

役員 小串 重治さん
グラウンドワーク大山蒜山
グリーンフロント研究所株式会社
大学非常勤講師



グラウンドワーク大山蒜山の活動地域である鳥取県と岡山県に渡る広い地域には、まだまだ目を見張るような豊かな自然が残されています。この環境を継続していくために、その自然の大切さを理解し、保全するための行動に移せる人を育成していくことはとても重要と考えています。

OJT研修事例

**NPO法人
グラウンドワーク西神楽**
北海道旭川市

1995年（平成7年）、地元地域の若手農業者グループの呼びかけで、阪神淡路大震災の被災者児童23名をホームステイさせたことを契機に、市民団体「西神楽地域づくり研究会」が活動を開始。2001年（平成13年）にNPO法人としての認証を正式に受け、グラウンドワーク西神楽が発足。地域住民による手作りのパークゴルフ場を造成し、運営するなどの活動を展開している。



コミュニティビジネスの事例を多く学び 事業計画作りに弾みをつける

宇宙物理学者の佐治晴夫理学博士による講演や、「さと川パークゴルフ場」の整備、農業研修などに加え、日本各地のグラウンドワーク団体の代表によるフォローアップ研修で、コミュニティビジネスの事例を多く学び、ビジネスプランづくりに弾みをつけてもらいました。

OJT研修内容(1例)

- 1日目 さと川パークゴルフ場の整備、フォローアップ研修の準備
- 2日目 さと川パークゴルフ場の整備、フォローアップ研修の資料作成
- 3日目 農業研修 上村農園でのイチゴの収穫等
- 4日目 フォローアップ研修の運営、総合報告書の素案作成
- 5日目 フォローアップ研修の運営、ビジネスプラン素案の作成

研修期間

8月23日～9月25日（5日間×5回）

受入れ人数

14名



実行団体代表者

理事 谷川 良一さん
NPO法人グラウンドワーク西神楽



いろいろありましたが、結果的にこのOJT研修は、実りあるものになったと実感しています。研修生たちも、自分がどのような社会的事業を展開するべきか、ある程度の方向性も見いだせたようです。今後は、もっと人数を増やし、規模を大きくして、この西神楽地域での実地研修を展開し、研修生も西神楽地域も同時に新たな活力が生まれるようにしたいです。

現場指導者【神楽岡公園の樹木解説担当】

代表 成田 一芳さん
みどり21の会



今回のインターンシップ事業は、研修生として参加する利点以上に、受け入れ側の立場としても大きなメリットがありました。全国から若い学生さんをはじめとして、様々な世代が集まり、活発な意見交換することで、このグラウンドワーク西神楽に以前から関わっていた人たちにも活気が戻ったと思います。生の声による新たな交流が生まれ、強い刺激を受けたことは間違いないでしょう。